

News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第48号

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています) 住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15 TEL/06-6879-5021



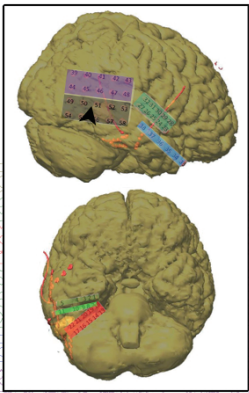
未来医療開発部の発足式=8月1日

新しい治療法から臨床応用までを一貫して円滑に進める未来医療開発部が8月、阪大病院に新設されました。同部は、新薬の治験や臨床研究を支援する臨床試験部と新たな治療法を探索する未来医療センターを統合し、またデータを管理するデータセンターを新設して、基礎研究をより効率的に臨床応用へ結びつける役割を果たすとともに他学部や企業との連携も強化し、先進的な医療シーズが臨床現場でスピーディに実用化されるようにバックアップすることで、医療発展につながると期待されています。臨床試験部はこれまで、新薬治験を年間約100件、阪大病院独自の医師主導型新規臨床研究を約250件支援してきました。また開設10周年になる未来医療センターは、重症の心不全患者の治療に活用できる筋芽細胞シートの開発や口腔粘膜細胞を角膜治療に利用する臨床研究など30件以上の臨床研究を行っています。

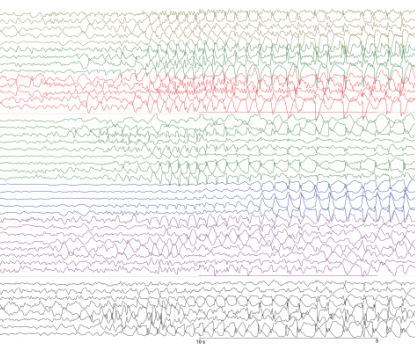
臨床試験部 未来医療センター を統合 他学部や企業と連携 シーズ掘り起こしも

未来医療開発部は、これらの研究を引き続き行うとともに、薬学部、歯学部や工学部など他学部の研究者が「何かに役立つかもしれない」と考えながらも、どのようにすれば良いのかが分からなかったシーズを掘り起こし、臨床研究へと橋渡しします。また、企業が開発する新薬や医療機器などについても、共同研究を行うことで最新の分析機器を使って新薬候補物質の有効性の有無を素早く検査し、動物実験や初めて人で試す早期・探索的臨床試験を行えるうえにデータ管理も一貫してでき、スムーズに治験、臨床応用、実用化へと結びつけることができます。澤芳樹部長は「学内

てんかんを扱っている診療科と看護師、医療ソーシャルワーカー等が連携して、てんかん



脳の表面に電極(脳図:▲位置)をおき、てんかん発作の始まりの部位を探す。てんかんが脳のどこから始まるか(脳波図:下線部)が分かると、その部位を切除することで、てんかん発作がなくなる可能性がある。



てんかんセンター オープン 発作をいかに抑えるか

のシーズを調べたところ1年間に150もありました。未来医療開発部が設置されたことで、研究者が「臨床応用できる可能性が高まった」と期待を寄せています。

てんかんは、全身性といれんなどてんかん発作と呼ばれる発作を繰り返す病気で、乳幼児から高齢者まで年齢にかかわらず発症します。脳の外傷や脳血管の障害によって起こることもありますが、原因や症状、病気のタイプはさまざまで診断が難しく、治療も専門性が必要です。阪大病院ではこれまで小児科をはじめ、神経内科・脳卒中科、神経科・精神科、脳神経外科で診ていました。

問診によって発作の症状やその他の患者さんの様子を聞いたうえで、脳内のどこが発作を起こす部位かを調べるために脳波を検査します。発作が起こった時しか発作を起こす場所が分かりませんので、長時間にわたりビデオで脳波を記録・保存して検討したり、脳の活動により生じる微小な磁場を測定する脳磁図を作成したりして発作部位を探し当てます。さらに、MRIやPETなどによる画像診断も行い、総合的に判断します。同センターでは各

期的にカンファレンスを行うことで診断し、治療方針を決めます。治療は、発作を抑えることが最重要であり、様々な抗てんかん薬も開発されていることから、タイプに応じて適切な薬剤を投与することになります。特に小児のてんかんは、発作が精神的、肉体的発達に影響を及ぼすため、いかに発作を抑えるかが重要です。発作を起こす脳の部位が一方所である場合は、外科的に取り除く手術により治療することができ、発達への影響を抑えられます。この手術は、脳神経外科が行う「てんかん外科」と呼ばれる分野に属します

が、阪大病院は技術的にも治療件数でも全国的にトップレベルです。外科的な手術ができない時は、薬をうまく使ってできるだけ発作を抑え、発達に影響がでないようにコントロール

禁煙外来 始まる

通院加療者を対象に

平成23年4月に阪大病院が敷地内禁煙となり、同年12月から保険診療としての禁煙外来が始まりました。保健センター内科医師3名と専任看護師1名、外来看護師長、医事課スタッフの協力を得て、地下1階放射線科外来の一室を使用し、毎週木曜日午後の診療枠でスタートしました。阪大病院に通院加療中の患者さんで、原則院内紹介、完全予約制で受け付けています。これまでに、11名の禁煙希望の患者さんを各科よりご紹介いただきましたが、手術前にご紹介いただくケースが多いのが特徴です。すでに、2名の患者さんが無事禁煙に成功され、3月に阪大病院修了証書第一号の授与式、4月には第二号の授与式(写真)を実施しました。まだ予約枠には十分空きがありますので、積極的な禁煙が必要で、ぜひ禁煙したいとおられる患者さんをご紹介下さい。

患者さんと医療者のパートナーシップ

みんなのこころ いろいろた

全4回シリーズ
~第3弾!~

不安や悩みを一人で抱え込む必要はありません。家族、友人や病院の職員などに気持ちを伝え、一緒に治療に取り組んでいきましょう。

不安や悩みを一人で抱え込む必要はありません。家族、友人や病院の職員などに気持ちを伝え、一緒に治療に取り組んでいきましょう。

不安や悩みを一人で抱え込む必要はありません。家族、友人や病院の職員などに気持ちを伝え、一緒に治療に取り組んでいきましょう。

①…二度三度 たずねることも遠慮なく
治療の主役はあなたです

②…ホッとすると 相手に話そう
不安な気持ち

③…二度三度 たずねることも遠慮なく
治療の主役はあなたです

すべての治療はあなたを中心にするべきです。病気についてはご自身でも勉強しましょう。わからないことやご希望があるときには遠慮なく病院の職員にお伝えください。

次回、第49号では「ハ(服薬管理)」と「ト(自己決定)」の句を紹介いたします!

「サウンド・オブ・ミュージック」にのせて



10月5日に「秋のミニコンサート」が開催され、箕面市を拠点に活躍されているアンサンブル〈銀の鈴〉の方々に出演していただき、映画「サウンド・オブ・ミュージック」の中から皆さんご存じの曲を披露してくださいました。最後に全員で「ドレミの歌」を歌い、秋の夜長のひとときを楽しんでいただきました。

病院見学会～医療の現場を実感～

9月28日に病院見学会を実施し、応募者の中から抽選で選ばれた一般市民14名が参加されました。



参加者は病院の概要説明を受け、ヘリポートでドクターヘリを見学。未来医療開発部では再生医療、iPS細胞等の研究現場に触れ、内視鏡センターと薬剤部の見学を行いました。普段見たり入ったりする機会のない施設を案内し、病院における安全管理体制を実感していただきました。

一日看護師体験

「幅広い仕事を自分の目線で」



高校生を対象とした大阪府主催の「一日看護師体験」を7月26日に実施し、7名が参加しました。

午前中、患者さんとの会話、清拭や足浴、血圧測定や検温等を体験した後、病院食を味わいました。

午後は手洗い・正しいマスクのつけ方講習、病院の見学などをして、和やかに過ごしました。参加者からは「幅広い仕事を看護師の目線で体験できました」などの感想が聞かれ、看護職を目指す生徒には将来の看護師像を具体的に描けたようです。

「がんの予防と早期診断」

市民公開フォーラム参加者募集!

日時 12月1日(土) 午後1時～3時30分
場所 大阪大学医学部講義棟A講堂
定員 240名(先着順)

【講演内容】

- 1 **がんの検診と早期診断(肺がんを中心に)**
大阪府立成人病センター がん予防情報センター 疫学予防課 課長 中山 富雄
- 2 **子宮がん検診とHPVワクチン**
大阪大学大学院医学系研究科 器官制御外科講座(産科学 婦人科学) 講師 藤田 征巳
- 3 **がん登録から見た我が国のがんの現状とがんの予防**
大阪大学大学院医学系研究科 社会環境医学講座(環境医学) 教授 祖父江 友孝

【申し込み方法】 はがき、ファックス、電子メールにより、氏名、性別、年齢、郵便番号、住所、電話番号を明記のうえ、下記へ送付(個人情報保護法は、本件以外の目的には使用いたしません)

【あて先】 〒565-0871 吹田市山田丘2-15
大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係
TEL06(6879)5020.5021 FAX06(6879)5019
E-mail ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp

【決定通知】 参加の可否をはがきでお知らせします。

※ご来場の際は、公共交通機関をご利用願います。



未来医療開発部長 澤 芳樹

大阪大学医学部附属病院では8月1日より、臨床試験部と未来医療センターの統合によって未来医療開発部が設置され、初代部長に就任させていただきました。この

10年間において、それぞれに発展してきた両部門を統合・合理化し、アカデミア発の未来の医療を日常医療に届けられるように、探索的臨床研究から治験そして商品化へとシームレスに繋げ、一人でも多くの患者さんのご期待に添えるように努力していきたいと思っております。

(平成24年8月1日就任)



エコーで骨や関節の異常を診る

研究と臨床タッグ、膠原病など難治性疾患を診療

免疫・アレルギー内科

免疫・アレルギー内科は、免疫学の最先端研究と臨床をリンクさせて難治性の免疫疾患の新たな治療法を開発

するとともに、膠原病の的確な診断・治療で、トップレベルの診療を行っています。関節リウマチや全身性エリテマトーデス、強皮症などの免疫疾患である膠原病は、市中病院では適切な対処ができないことがあり、他府県からもたくさん

の患者さんが当科に紹介されてきます。特に関節リウマチに関しては、インターロイキン6(IL-6)という免疫関連物質が関節の炎症や変形に大きく関与していることを本学の岸本忠三名誉教授が明らかにしました。IL-6の働きだけを抑制する薬、トシリズマブが開発され、当科などでの治験を経て、日本発の関節リウマチ薬として全世界で使われるようになったのです。それまでは炎症を抑えるステロイド剤、抗

リウマチ薬や金剤が主流でしたが、関節の変形を抑えることがなかなかできませんでした。しかし、トシリズマブをうまく使うことによって、副作用もほとんどなく、関節の炎症も変形もほぼ抑えられるようになりました。またトシリズマブは、強皮症やリウマチ性多発筋痛症などの膠原病にも治療効果のある

ことが当科の試験・研究で明らかになり、適応が拡大されようとしています。当科ではトシリズマブを用いた治療だけでなく、免疫の基礎研究で明らかに

なりつつある膠原病の原因となる物質をターゲットにした治療ができないかなど、研究と臨床がタッグを組んで難治性の免疫疾患の診療にあたっています。他の診療機関で「原因不明」として紹介されてきた患者さんを、臓器別に診るのではな

より質の高い看護を目指し

カリキュラムを工夫し、選択受講制

看護部キャリア開発センター

看護部キャリア開発センターは、看護師の臨床実践能力を高めるとともに、より高度な専門性を身につけるといった点で、看護の質向上に大きく貢献しています。また、関連病院や地域の医療機関の看護師がキャリアアップできる機会も提供して

います。同センターは8年前に、院内のクリニカルラダーのレベルⅡ(一人前と認められた看護師のレベル)に達した看護師が、より高い専門性を発揮できる能力を獲得するように設立されました。またキャリア開発を推進していくため

に、各自が空き時間を利用して必要な研修を選択受講できるシステムを採用し、これまでに約2000人がチャレンジしています。研修は専門分野別に

に、各自が空き時間を利用して必要な研修を選択受講できるシステムを採用し、これまでに約2000人がチャレンジしています。研修は専門分野別に

に、各自が空き時間を利用して必要な研修を選択受講できるシステムを採用し、これまでに約2000人がチャレンジしています。研修は専門分野別に

に、各自が空き時間を利用して必要な研修を選択受講できるシステムを採用し、これまでに約2000人がチャレンジしています。研修は専門分野別に

に、各自が空き時間を利用して必要な研修を選択受講できるシステムを採用し、これまでに約2000人がチャレンジしています。研修は専門分野別に

に、各自が空き時間を利用して必要な研修を選択受講できるシステムを採用し、これまでに約2000人がチャレンジしています。研修は専門分野別に

に、各自が空き時間を利用して必要な研修を選択受講できるシステムを採用し、これまでに約2000人がチャレンジしています。研修は専門分野別に

熱心に学ぶ看護師たち



新任部長・施設長ごあいさつ

てんかんセンター長 大 蘭 恵一

てんかんは小児から高齢者までみられる頻度の高い慢性神経疾患であり、小児科・神経内科・脳卒中科・脳神経外科・神経科・精神科において診療を行ってきました。近年、新規

の抗てんかん薬が開発され、外科的な治療も行われ、てんかん治療は進歩しています。しかし、なお、発作コントロール困難例が約2割あります。本院では、上記の診療科が協力して包括的かつ高度なてんかん診療を行うために、てんかんセンターを設けました。また、臨床心理士及びソーシャルワーカーなどによる患者サポート体制の充実も図ります。てんかんセンターを基盤にして、さらなるてんかん診療の発展に向けて努力するつもりです。

(平成24年8月1日就任)

今年度からは、研修内容を大幅に見直ししました。レベルⅡの看護師は、自分の将来を明確にイメージするのが難しく、それが明らかになったので、Basicコースとして、専門分野を特定せずに受講できるコースを設けました。

今年度のBasicコースは全部で23あり、大きく実践、管理教育、研究に分かれています。実践では「患者のQOLにつながる退院支援」など、すぐに現場で使える知識が学べるようになっていきます。管理ではチーム間でのコミュニケーション能力を高め、リーダーシップを発揮できる看護師の養成を目指します。教育では新人看護師教育、後輩育成のコツを身につけることができます。研究では演習を中心に、自分で研究する能力が身に付くようになってい

す。Basicコースに続いてより専門性の高いAdvancedコースも用意されています。

看護師の多くは女性で、妊娠、出産などで女性特有のライフステージがあり、それらを考慮したキャリア開発が必要とされています。同センターでは、気軽に研修を受

けられるように研修日時を工夫し、各自が自分のライフサイクルに合わせて選択できるようにしています。

越村利恵センター長は「研修によって看護師としての資質がアップし、看護の質がよりよくなることを期待しています」と話しています。